

第40回郡山市子ども・子育て会議 会議録

【日時】

令和3年5月27日（木）午後2時00分～午後3時30分

【場所】

郡山市総合福祉センター3階 研修室2・3

【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) （仮称）郡山市保育・幼児教育ビジョンについて
 - (2) 保育所等の待機児童の状況について
 - (3) 放課後児童クラブ入会及び整備状況について
 - (4) その他
- 4 その他
- 5 閉会

【出席委員】

14名（敬称略）

滝田 良子、平栗 裕治、吾妻 利雄、大川原 順一、佐藤 真澄、三瓶 令子、遠野 馨、濱津 真紀子、蛭田 さゆり、安田 洋子、箭内 孝仁、山田 祐陽、吉田 みね、佐藤 勉

【欠席委員】

4名（敬称略）

佐藤 広美、佐藤 一夫、隅越 誠、福内 浩明

【事務局職員】

9名

こども部	: 国分 義之（部長）、相楽 靖久（次長）
こども政策課	: 伊藤 恵美（課長）、榮 一寿（課長補佐）、 鵜川 哲郎（主任主査兼こども企画係長）
こども家庭支援課	: 伊藤 克也（課長）、佐藤 香（課長補佐）
保育課	: 杉内 泰史（課長）、早川 利郎（課長補佐）

【配布資料】

資料1 保育ビジョン【1章-2章・3章（概要）】（当日配布資料あり）

資料2 待機児童数・継続入所希望児童数

資料3 放課後児童クラブについて

その他 こどもの数の推移

1 開会

（鵜川係長）

定刻となったので、ただいまより「第40回郡山市子ども・子育て会議」を開催する。

【傍聴希望者が名おり、郡山市附属機関等の会議の公開に関する要領の規定により会長が許可することとなっていることから、滝田会長にお諮りし許可を得る】

2 会長あいさつ

【滝田良子会長から以下のとおり挨拶がある。】

- ・連日新型コロナウイルス感染症で皆様が大変な思いをしている中、郡山市においてもあってはならないことではあったのですが、認可保育所でクラスターが発生してしまった。これは本当に残念でたまりません。というのは、幼稚園、小学校、保育園など様々な子どもに関わる施設で、その職員は、本当に必死になって子どもたちを感染させないように、感染防止対策を講じていたのだが、やむを得ずクラスターが発生してしまった。これは自分としても、子どもたちや保護者の皆様に申し訳ないという気持ちでいっぱい、私たちも、いつ自分の身に降り掛かるかもしれないという意識を持って、子どもに関わる施設においては、改めて感染症感染を徹底していきたいと考える。一方、高齢者向けのワクチン接種が始まったことで、少しは状況が良くなっていくのではないかと期待をしている。
- ・前回の会議において、郡山市において子どもたちをどう育てていくか、（仮称）郡山市保育・幼児教育ビジョンに係るアンケート結果が示されたところであるが、今回はさらに深めて議論して参りたい。子どもたちはこれから、色々なことに遭遇すると思う。新型コロナウイルス感染症も、子どもたちの試練であったかと思う。しかし、子どもたちが「柔軟に生きていく」、その術を私たち大人が示唆していかなければならないと思う。そのために、例えば忍耐力であるとか、様々な内容について教育・保育を実施することが、とても重要だと思う。（仮称）郡山市保育・幼児教育ビジョンはその柱になるであろうと考えている。

3 議事

【議事の前に、事務局：鵜川係長から本日使用する資料の確認がある】

【議事の前に事務局：国分部長から資料の概要の説明がある。】

<傍聴者が入室する。>

(鵜川係長)

それでは「議事」に移るが、以降の会議の進行については、滝田会長に議長をお願いする。

(滝田議長)

それでは、議長を務めさせていただく。

まずは、議事の(1)(仮称)郡山市保育・幼児教育ビジョンについて事務局から説明をお願いいたします。

【事務局：杉内保育課長から、資料1に沿って説明がある。】

- ・前回会議において、保育者アンケートの回答者に偏りがあるのではないかと意見
をいただいたので、改めてアンケートを実施した。当日配布資料を参照。

(滝田議長)

ありがとうございました。また、前回会議で皆様から不公平感があるのではないかと
いうことで、意見があった。大至急、追加で調査いただいて、ありがとうございました。

委員の皆様から意見をいただきたいと思うが、先に私から確認したいことがあるが、
よろしいか。事務局説明では、現段階ではあくまで素案ということだが、これから章立
てを変更することや、内容が若干変わってくるとか、そういうことも可能であるという
ことか。

(事務局：杉内保育課長)

変更については、ご意見の内容にもよるが、あくまでも今回は素案であるので、この
内容はこの章へ入れたほうがいいのか、この内容をこうしたらほうがいいのか、
ではないか、という意見をいただければ、検討していきたい。

(滝田会長)

本ビジョンの「こども」とは3歳以上か？乳幼児ととらえてよいのか。

15ページ(8)保育所保育指針などをその他3つの指針とくくらずに、並記してはど
うか。

(事務局：杉内保育課長)

乳幼児です。

3つとも並記したいと思う。

(滝田会長)

その他の意見、質問はないか。

(安田委員)

ビジョンの策定にあたって、「全国的な動向」という項目を立てていただいているが、
社会における世帯や家族の状況がどこにも出てきていない。ひとり親家庭や共働き家庭
などの様々な世帯の変化がとても大事なところだと思うので、それを盛り込んだ形で項
目を立ててほしい。

(事務局：杉内保育課長)

確かに、「本市の課題」というところでは入っていたが、全国的なところの部分ではそういった言葉が入っていなかった。そちらの表現についても検討させていただきたい。

(滝田会長)

その他の意見、質問はないか。

今後の章立てでどうなるか？などありますか。

(吾妻委員)

認可保育所では、市に年間の保育計画「教育及び保育の内容に関する全体計画」を提出するが、「郡山市児童像」というものが計画の1番上にある。郡山市児童像に基づいた形で保育計画を立てている。今回のビジョンと連動することも考えられるが、保育所長会や幼稚園協会など、現場の声を擦り合わせながら、内容の協議を行い、全体計画との紐づけをしてよりよいビジョンになればいいかなと思う。

(事務局：杉内保育課長)

「団体からいただいた現場の声を生かしながら」という話があった。今回第3章の方に基本的な考え方を示しており、皆様方からのご意見を踏まえながら現実的な生きた形のビジョンにしなければならないと考えているので、次回以降が具体的な内容となる。

(事務局：国分部長)

保育所保育指針、幼稚園教育要領が2017年に同時に改正され、幼児期の終わりまで育ってほしい姿が統一した形で示された。保育・幼児教育ビジョンを作るが、こういったものを踏まえたうえで保育園・幼稚園・こども園を統一した形で郡山市の子どもたちが幼児期の終わりまで育ってほしい姿を示すことができればと思う。

(安田委員)

3点

1つめ、障がいがある児童や特別な支援を要する児童や保護者への対応については保育所・幼稚園とも課題として取り上げている。

障がいがあっても、そういうお子さんを教育している親御さんにとっても仕事をしなければ生活が成り立たない現状があり、保育園と療育施設を併用している方も増えていると思う。現場が混乱しないよう先取りした形で、障がいのあるお子さんへどんな支援をしたらよいかについて、積極的な研修を実施し既存の支援機関との連携の仕方をしっかり作っていく必要があると思う。親御さんもどこに相談したらよいか分からないし、担当している保育士さんもどこに相談したら解決策に結び付くか分からないということで現場が疲弊している話を耳にする。連携の仕方を明確に進めていただければと思う。

2つめ、保育幼児教育の質の向上に向けた取り組みというところは2つの大きな視点があると思う。1つは現場をどうやってボトムアップしていくかというもので、行政がリーダーシップをとって施設への支援をしていく部分と保育施設のマネジメント力を高めていき、保育士さんたちが疲弊をしないで経験を重ねて継続的に仕事できるような環境づくりをしていくことが大事だと思う。

給料が安いのは事実だと思うが、その他に仕事量や人間関係で心が折れてしまう話を聞く。そういったところをどのように解決していったらよいかが大事だと思う。

3つめ、待機児童ゼロ達成ということで大変な努力をしてきたと思う。AIを活用し、入所希望施設を10か所出していただきマッチングしていく工夫をされているが、希望施設10か所は正直保護者にとってはしんどいのではないかと。10か所の中で上位のところに入れればいいが、下の方にマッチングしましたと言われても納得いかず継続入所に切り替えた方もいるのではないかと。マッチングの仕方が不満になって継続入所が増えているというのが資料2のデータの中の下の方のグラフの数値の増加に表れているのではないかと。ゼロを達成していくことの難しさがそのあたりにあると思うので、マッチングの仕方の中身を検討していく必要があるのではないかと。

(事務局：杉内保育課長)

1つめ、いただいた内容を今後の第4章、第5章に盛り込みたい。

2つめ、働く意欲向上のために、質の向上をしたい。

3つめ、希望していないところには入所できないので、少しでも可能性のあるところを書いていただくようにしている。すべてが希望通りにはなっていないが、なるべく上位でマッチングする。

(事務局：国分部長)

待機児童のカウントについては、第5希望までに入れなかった方についてカウントしているので、10か所にしたから待機児童ゼロになったわけではない。第6希望以降の人は待機児童扱いである。

(滝田会長)

その他の意見、質問はないか。

(平栗副会長)

幼稚園の方からお話ししたい。幼稚園は教育要領があり、それを基本形として各幼稚園が運用されている。こども園もこども園要領がありその辺を区分けできるよう取り組んでいただきたい。

基本的には文科省からの教育要領があるが、その下に幼稚園には「建学の精神」という「こんなお子さんを育てたい」というものがあり、連合会でその共通項を検討していかなくてはならないが、それを郡山市の基本理念とさせていただければありがたい。

待機児童が無くなっていくと思うが、次に重要なことは幼児教育の質だと思う。ビジョンの中に質をいかに保つかが非常に大事だと思うので、子どもの権利を最大限生かすようなものを一番上に置いていただいて、質に重きを置いてビジョンを策定していただければありがたい。

(事務局：杉内保育課長)

指針はすべて重要で大切なものだと考えている。きちんとビジョンに並記させていただく。建学の精神も生かしたいと考えている。

(滝田会長)

子ども条例は子育て会議より発案させていただいたものである。これを尊重していただいて部署にとらわれず、子どもたちが健康に暮らせる環境づくりの一つがこのビジョンだと思う。幼稚園・保育園に関係しない部署に所属されている方たちもいずれは子どもたちとの基盤づくりのおひとりだと思うので、これからも策定に当たってはご協力をお願いしたい。

(滝田議長)

次に、議事の(2) 保育所等の待機児童の状況について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局：杉内保育課長から、資料2に沿って説明がある。】

- ・ 毎回、最新のデータをお示ししたい
- ・ 継続入所希望とは国基準待機児童には該当しないが、入所の希望がかなっていない方

(滝田会長)

意見、質問はないか。

(なしの声)

待機児童ゼロ、ありがとうございました。4名は、入所を叶えてあげられるよう、ご努力をお願いいたします。

(滝田議長)

次に、議事の(3) 放課後児童クラブ入会及び整備状況について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局：伊藤政策課長から、資料3に沿って説明がある。】

(滝田議長)

幼稚園など補助金をもらって運営しているところについて解説いただきたい。

(事務局：伊藤政策課長)

郡山市では直営で児童クラブを運営しているが、令和3年度より、民間事業者へ補助を実施している。直営で待機児童ゼロが追い付かないため、今後も引き続き整備を進めていきたい。

(滝田議長)

令和3年度から、民間でも拡大している。公的機関で支援が不可能なのではなく、事情に応じて多種多様な機関を設けるという子育て支援法にのっとってのものだと思う。質問あったらお願いしたい。

(佐藤真澄委員)

3年生までとなっているクラブは、待機児童数も3年生までのカウントなのか。4年生以上で申し込みがある人は待機児童数に含まれるのか。

(事務局：伊藤政策課長)

基本的に申し込みいただいて入れない方は待機児童としてカウントしている。ここで6年生までとなっているところは4・5・6年生も希望すれば入れるが、制限しているところは4年生で入りたいという希望をいただいても、低学年優先ということで受付をしているので入れないという形になっている。

(佐藤真澄委員)

保育園・幼稚園でもグレーゾーンの子供が増えていると聞くと、児童クラブでもそういったお子さんは増えているという認識はあるのか。

(事務局：伊藤政策課長)

支援を要する子どもさんは増えていると伺っている。支援についても加配を行い、基準の支援員の数を増やして対応しており、学校や専門機関との連携を行い訪問して指導いただくこともある。

(山田委員)

放課後児童クラブの条件に当てはまらず申し込みを行わない保護者の方、少し働いているが児童クラブに預けるほどではない方が急な用事で一時預かりが必要になったときは、一時預かりをしてもらえるシステムはあるのか。

(事務局：伊藤政策課長)

児童クラブでは預かることはできない。

小学生は預かりではなく、地域交流センターの中には居場所を提供しているところもある。

(山田委員)

様々な状況の方がいるので、ニーズに応えられるシステムがあると有り難いなと思った。

(滝田会長)

その他の意見、質問はないか。

(佐藤勉委員)

ありがたいと思うのは、子どもたちが「ただいま」と児童クラブに入っていき、支援員の方が「おかえり」と温かく迎えてくれることだ。

支援員の方は頑張っていると思うが、大変厳しいと感じているのは特別な支援が増えてきてその対応に難しさを感じていると思う。加配で支援員をつけてくれるとのことだが、障がい名がなくグレーゾーンのお子さんでも人手やたくさんの愛情が必要なので、現場に即した加配を進めてもらえれば支援員・入会している子どもが共に助かり、入会させている親御さんも安心して子どもを預けることができると思うので検討いただければと思う。

(事務局：伊藤政策課長)

ご意見ありがとうございます。お父さんお母さんが安心して預けられる児童クラブ運営に努めていきたい。

(滝田議長)

次に、議事の(4) その他について、まずは事務局から何かありますか。

【事務局：伊藤政策課長から、資料その他に沿って説明がある。】

(滝田議長)

委員の皆様から何かありますか

(安田委員)

もし分かれば教えていただきたいが、0歳児の保育所への申し込みが少なくなっているのは育児休暇をとって1歳から保育所に申し込む傾向になっているためなのか、データがあれば示してほしい。

(事務局：杉内保育課長)

データを持ちあわせていないため、次回の会議までにはお示ししたい。

(滝田会長)

それでは、その他無いようなので議事が終了したものとして議長の職を解かせていただく。皆様ご協力ありがとうございます。

4 その他

(事務局：伊藤支援課長)

前回の遠野委員の質問について回答させていただく。

- ・こども家庭相談センター 例年通りで推移
- ・コロナ給付金 3月～6月
- ・緊急小口資金（社会福祉協議会）＝約2,400件、住宅確保＝約650件
ひとり親を含めた全世帯 このうち、7%がひとり親

5 閉会

(鵜川係長)

次回の会議は、令和3年7月29日（木曜日）午後2時に開催予定である。
以上をもって、会議を終了する。

以 上